

イタリア発、  
福島の子どもたちの元気と夢を育む  
プロジェクト 2019

---

結果報告レポート

社会貢献事業振興団体 (No profit)  
オルト・デイ・ソーニ

— 自然との共生、心身を育む食、異文化に触れ視野を広げる 子ども教育支援 —

登録番号 97604550158

Via Milazzo, 10 – 20121 Milano

[www.ortodeisogni.org](http://www.ortodeisogni.org) – [info@ortodeisogni.org](mailto:info@ortodeisogni.org)



*orto dei sogni*



イタリア発、  
福島の子どもたちの元気と夢を育む  
プロジェクト 2019

結果報告レポート

# REPORT 2019

---

## 目次

はじめに、代表の挨拶	1
2019年度 新規パートナーシップについて	2
沿革	3
2019年度 転地保養プログラム概要	5
一ヶ月間の保養の効果	7
子どもたちの声・保護者の声	8
2020年度 活動の概要(予定)	12

みなさまの温かいご支援の下、8年目のイタリア転地保養プログラム「カーサ・オルト - イタリアのみんなの家」を無事に終了することができました。継続して私たちのプロジェクトをご理解、応援くださる法人、団体、個人のみなさまに心よりお礼申し上げます。

5年間におよぶサルデーニャ島での転地保養の実施を経て、ミラノ市が運営するリグーリア州の施設“Casa Vacanza(カーサ・バカンツァ/休暇の家)”に拠点を移し、早くも3年となりました。ミラノ市から参加する子どもたちと一緒に過ごす1カ月の共同生活は、24時間体制の看護室やライフガード常駐の海辺などの整備された施設に滞在できる安心感はもちろん、いつも家族のように迎え入れてくださる献身的な現地スタッフの方々のおかげで心から寛げるものとなりました。恵まれた環境下で保養を実施できることのありがたさを実感しております。

今年日本国内の活動体制においても大きな幸運に恵まれました。在福島の「認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね」(以下たらちね、2ページにてご紹介)とのパートナーシップが本格的にスタート、本転地保養プログラムの共催団体として日本での活動を福島から支えていただけることとなりました。当団体との協同により、福島での保養準備や子どもたちへの保養後のサポート活動の質が飛躍的に向上いたしました。「放射能」や「保養の意義」についてわかりやすく解説した保養説明会の実現、渡航準備の丁寧なサポート、イタリアでの医療検査結果に対する専門家の立場からのフィードバックなど、これまで私たちの力では限界のあった活動分野を次々と手際良く改善くださいました。今後は、過去に本転地保養に参加したオルトキッズたちに福島での定期検診を実施するなど、新たな計画も視野に入れていく予定です。

福島のオルトキッズは、今年参加の20名を合わせ合計132名となりました。東日本大震災の記憶がない子どもたちも少しずつ増えていますが、彼らの生活は8年前に起きた原発事故に今も大きく影響されています。イタリアでは、「Vita da bambini = 子どもが子どもらしくいること」をととても大切にします。1カ月間放射能の心配をせずに、子どもらしく外遊びを、食事を、思い切り楽しむこと。外国のお友だちをつくりお互いの文化の違いを知ること、さまざまな価値観の存在を体感すること、肌の色は違ってもみな同じ子どもであることを実感すること。こうしたことが極めてヒューマンな国、イタリアで保養を行う醍醐味であると、子どもたちの弾ける笑顔を見ながら今年も実感しました。

「オルト・デイ・ソーニ(夢を育む小さな畑)」の目的は、子どもたちの夢の種が芽を出し、大きくなるのを応援すること。スタッフ一同これからも力を合わせ、私たちのオルト(畑)を肥沃にしていきたいと思います。“イタリアだからできること”を大切にしながら。

今後ともどうぞご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

オルト・デイ・ソーニ代表 小林もりみ



### 「認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね」とのパートナーシップ提携

オルト・デイ・ソーニは2019年より、福島県いわき市を拠点とする「認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね」(以下、たらちね)とのパートナーシップを締結し、転地保養プログラム「カーサ・オルト-イタリアのみんなの家」を共同主催することを決定いたしました。

この提携により、これまで被災地で不安を感じる方々に常に寄り添いながら活動を行ってきた「たらちね」の知見と経験、誠意と活動力のもと、転地保養の募集活動や参加者の選抜、参加決定者のイタリア渡航にあたる様々なやりとりをはじめとした日本国内における数々の活動の充実を図ります。

同時に、オルト・デイ・ソーニの設立当初から私たちが抱きつづけてきたミッションのひとつである「転地保養後も参加者の健康維持を応援し続けること」に力を注ぎます。

### 「たらちね」について

“被災地の母親たちが始めた放射能測定室”

東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故を受け、被災地の母親たちが家族と子どもの命を守るため、安全な食材を求めて放射能測定を始めたことをきっかけに2011年11月に開所。

食材以外にも子どもたちを取り巻く生活環境の放射能測定を行うほか、ホールボディカウンターを用いた全身放射能測定や尿中セシウム測定にはじまり、甲状腺検診、血液検査、こころのケアも含めた健康相談なども実施するクリニック(日本初の放射線測定室併設型クリニック)を運営し、子どもたちへの無料医療支援も実施している。さらには放射性物質の潜在的影響を学んだり、疾病予防のための意識向上を目的とした勉強会の開催のほか、「認定NPO法人 沖縄・球美の里」と共に沖縄での転地保養を主催し、子ども向け転地保養の相談所も運営する。

「子どもたちの未来を守る」ことを活動の原点とし、上記のような革新的なプログラムを実施している。



認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね

<https://tarachineiwaki.org>

〒971-8162 福島県いわき市小名浜花畑町11-3, カネマンビル3F



2011年 3月 東日本大震災 東京電力福島第一原発事故

2011年10月 NPO協会 オルト・デイ・ソーニ設立 (社会貢献振興事業団体としてミラノ市に登録)

	主なできごと	子ども招待人数	医療検査結果	保養開催地	滞在施設
2012年 第1回イタリア転地保養	ミラノ市より後援 (2012年～現在に至る) マルッピウ市より後援 (2012年～2016年) サルデーニャ島での転地保養実施 (2012年～2016年)	12	甲状腺エコーおよび血液検査 再検査が必要とされた子ども 0%	サルデーニャ島 オリストアーノ県 マルッピウ市	ズラーディリ 市営宿泊施設
2013年 第2回イタリア転地保養	NPO「ピースプロジェクト」との公式パートナーシップ (2013年～現在に至る)  ミラリジャパン(現「ルックスオティカジャパン」)が メインスポンサーとなる (2013年～現在に至る)	14	甲状腺エコーおよび血液検査 再検査が必要とされた子ども 7%	サルデーニャ島 オリストアーノ県 マルッピウ市	ズラーディリ 市営宿泊施設
2014年 第3回イタリア転地保養		16	甲状腺エコーおよび血液検査 再検査が必要とされた子ども 50% 甲状腺異常の疑い 56% (上記いずれかの該当者 81%)	サルデーニャ島 オリストアーノ県 マルッピウ市	サンタ・アンナ 教会付属 宿泊施設
2015年 第4回イタリア転地保養	「HOPE and LOVE」よりスポンサー支援 (2015年～現在に至る) 「PayPal Gives」よりスポンサー支援 (2015年～現在に至る)  「ヴェネツィア カ・フォスカリ大学連携協力インターンシップ 制度」導入 (2015年～現在に至る)	16	甲状腺エコーおよび血液検査 甲状腺機能の指標が基準範囲外の子ども 56%	サルデーニャ島 オリストアーノ県 マルッピウ市	サンタ・アンナ 教会付属 宿泊施設
2016年 第5回イタリア転地保養	「飯尾醸造」よりスポンサー支援 (2016年～現在に至る) ドキュメンタリー映画『小さき声のカノン - 選択する人々』 (鎌仲ひとみ監督) イタリア国内上映会開催 (2016年～現在に至る)	16	甲状腺エコーおよび血液検査 反応性リンパ節あり、もしくは初期甲状腺 疾患が疑われた子ども 75% (うち、慢性甲状腺炎 18%)	サルデーニャ島 イグレスィアス県 ドムスノヴァス市	シナジー 多目的施設

主なできごと		子ども 招待 人数	医療検査結果	保養開催地	滞在施設
2017年 第6回イタリア転地保養	ミラノ市運営の「休暇の家」での転地保養の実施 (2017年～現在に至る)	20	甲状腺エコー コロイド状嚢胞を有する子ども 30% (うち、石灰化 15%)  血液検査 白血球値が基準範囲外の子ども 30%	リグーリア州 サヴォーナ県 ピエトラ・リグレ市	ミラノ市 休暇の家
2018年 第7回イタリア転地保養	「認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね」との協同	20	甲状腺エコー コロイド状嚢胞を有する子ども 30% (うち、石灰化の疑い 5%)  血液検査 白血球値が基準範囲外の子ども 30% 甲状腺ホルモン関連値が基準範囲外の子ども 30%	リグーリア州 サヴォーナ県 ピエトラ・リグレ市	ミラノ市 休暇の家
2019年 第8回イタリア転地保養	「認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね」と 公式パートナーシップ締結	20	甲状腺エコー コロイド状嚢胞を有する子ども 40% (うち、石灰化 5%)  血液検査 白血球値が基準範囲外の子ども 5% 甲状腺ホルモン関連値が基準範囲外の子ども 25%	リグーリア州 サヴォーナ県 ピエトラ・リグレ市	ミラノ市 休暇の家

### プログラムの目的:

子どもたちの体内の放射能を排出し、心身の健康の維持と免疫力の向上、人間的な成長の促進を支援すること。

1986年より数多くのチェルノブイリの子どもたちを転地保養のために受け入れ続けてきたイタリアが実証した「1ヶ月の転地保養の効果」に習い、福島原発事故で被災した子どもたちのための約1ヶ月の転地保養を実施。

限られた期間に最大限の保養効果を得ること。保養の本来の目的を考えるとストレスは大敵であるが、海外生活を経験したことのない日本の幼い子どもたちにとって、言語や文化が大きく異なる外国人家庭でのホームステイではストレスの回避が難しい。意思の疎通に困らない環境下で、海外ならではの刺激を積極的に受け、子どもが子どもらしく時を過ごすことのできる機会を提供すること。

**日程:** 2019年7月21日から8月18日(日本到着19日)

**滞在先:** 「ミラノ市 休暇の家」 イタリア リグーリア州 ピエトラ・リグレ市

**参加者:** 20名(小学校2～6年生までの男女各10名)

募集と選考の基準:

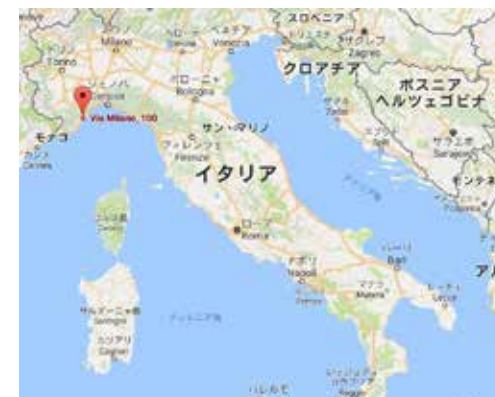
1. 福島県内在住の子ども
2. 経済的・社会的理由により、自主避難や海外での治療・保養ができない家庭の子ども
3. 本プログラム「カーサ・オルト - イタリアのみんなの家」の内容に賛同し、子どもの心身の健康を守りたいと考える家庭の子ども
4. 選考方法: 書類、親子面談、作文による審査

**参加費用:** 無料。ただし成田空港までの往復交通費を含む日本国内における諸費用は自己負担

**医療対応:** 一時健康保険証: 国税庁アルペンガ税務局、リグーリア2地方保険公社  
甲状腺エコー検査: リグーリア州立サンタ・コローナ病院 放射線科  
血液検査: リグーリア州立サンタ・コローナ病院 病理科

**尿中放射性物質濃度計測:**

ミラノ大学物理学部、イタリア国立原子力研究所ミラノ支部 (グロッピ教授、マネンティ博士)



リグーリア州はイタリア本土の北西に位置し、海岸に沿って東西に広がる。南はリグーリア海に面し、北にはアルプスを控える自然豊かな土地。人口約158万弱、総面積約5400km<sup>2</sup>。

## 保養期間中のアクティビティ紹介:

オルト・デイ・ソーニの活動の3つのテーマ「自然」、「豊かな食」、「異文化に触れ視野を広げる」にもとづき、滞在地特有の文化や伝統を反映させながら各種のアクティビティを構成します。前年同様、今年もミラノ市主催の「休暇の家」サマーキャンププログラムに参加しましたが、イタリア人の子どもたちやスタッフたちと日々の共同生活を送る中で、オルト・デイ・ソーニが提案する日本文化に根ざしたワークショップや遊びを加えることにより、さらなる国際交流を図ることができました。

### 通常のアクティビティ

- \* 海水浴、シュノーケリング
- \* 団体スポーツ: ドッジボール、バレーボール、フットサル
- \* 異文化交流ワークショップ: 書道、折紙、合気道
- \* 料理ワークショップ
- \* 夕方のレクリエーション: ダンス、歌、ゲームなど
- \* 宿題と絵日記
- \* 日本の家族とのLINEビデオチャット(毎週日曜日)

### 課外プログラム

- \* 遠足 - ジェノバ市街と水族館、ボルゴ・ヴェレッツィ洞窟探検
- \* ウォーターパーク - 「レ・カラヴェツレ」
- \* 地元散策 - ピエトラ・リグレの街、ロアーノの街
- \* レクリエーション - 子ども牧場「イル・ボッチョーロ」
- \* ピクニック - ピエトラ・リグレ植物園





## 1ヶ月間の保養の効果

### 各種医療検査結果

甲状腺エコー: コロイド状嚢胞の検出 40% (うち、石灰化 5%)

血液検査: 白血球数の基準外数値の検出 5%、甲状腺ホルモン関連値が基準範囲外 25%

**尿検査分析結果と保養による効果** (注): 2019年11月現在、分析データ待ちにつき、本報告書には参考までに2018年のデータを記載しています。

オルト・デイ・ソーニが実施する尿検査とは?

保養の開始直後および終了直前にひとりあたり各回500mlずつの尿を採取し、セシウム137(原発事故により環境に放出されている主な放射性物質)の濃度を測定。以下、参考データ (2018年の検査分析結果)

保養開始直後 - 20名全員からセシウム137検出

保養終了直前 - 20名全員のセシウム137検出量が減少。うち、3名については約67%、別の3名については 50%の減少が見られた。

検査結果はデータ・診断書内容ともに保護者に直接報告し、子どもたちの今後の健康管理の目安に活用できるようにした。これにより、その後の定期的な医療検査受診や転地保養参加を促すことにつながった。

### 保養による身体的精神的効果

保護者からのメッセージ(アンケートや手紙から抜粋)

- 身体がひきしまり、しっかりした。ビデオゲームをあまりしなくなった。ポテトチップスなどのスナック菓子をほとんど食べたがなくなった。
- 初めての集団生活とこれまで知らなかった世界を知り、成長した。見たもの、触れたもの、食べたもの、すべてが良い思い出になったようだ。
- 自分の意見を言おうと努力するようになった。集団生活を通して、他の人を思いやること、規則を守ることを学んだ。

尿中セシウム濃度減少例(Bq/Kg)

- 2018年のデータに基づく参考数値 -

試験体番号 5

保養開始直後 0.15

↓

保養終了直前 0.05

試験体番号 19

保養開始直後 0.21

↓

保養終了直前 0.08

測定・分析:

ミラノ大学物理学部

イタリア国立原子力研究所ミラノ支部



### A君(3年生) (抜粋)

ぼくは(うまれて)はじめてうみにはいりました。とてもきもちよく、魚をいっぱいみつけました。ぼくは、きれいな石も見つけて、とてもうれしい一日でした。そして、シュノーケリングをして魚をいっぱい見ました。とてもきれいでした。このすばらしい、しんさいでダメになってそれをきれいな海やすばらしいところにつれていってくれたすばらしいキャンプ。ゆめを育むちいさなはたけといういみで、いいことと思いました。そしてボランティアさんは、しんさいにあった人たちのためにこのキャンプを作って子どもをたすけようとするのが、すごくいいと思います。ぼくはこういうことが心にのこり、いろんなことをこのキャンプで学びました。

### B君(4年生) (抜粋)

この一ヶ月で初めての人とくらしてきて友達もふえて、協力してむずかしいことにもチャレンジした。自分とはまったくちがう人もいて、けんかすることもあった。イタリア人の友達もできて楽しいこともつまらないこともあった。この一ヶ月で学んだこと、それは、友達の大切さ、つまり必要さだ。とても楽しい一ヶ月だった。

### C君(6年生) (抜粋)

イタリアのキレイな海に入ったり、いろいろな自然体験をさせていただいたことをすごく感じました。いろいろな人たちの「協力」があってこそこの「オルト」ができたので、すごくありがたく感じます。

### Dちゃん(3年生) (抜粋)

オルト・デイ・ソーニで学んだことは、イタリア人のやさしさ、せいかくがわかったことです。(中略) もうひとつはいろんな友だちに声をかけられるようになったことです。さいしょははずかしかったけど、なれてきたらいろんな友だちに声をかけられるようになりました。ケンカもあったけど、楽しいまい日でした。みんなとなかよくなって、うれしかったし、楽しかった。3つ目はイタリア語を学んだことです。はじめはなににもわからなくてしゃべれなかったけど、「ありがとう」「どういたしまして」「海」「やあ」いろんなイタリア語をまなびました。

### E君(5年生) (抜粋)

オルトでぼくが勉強になったり学んだりしたのは、イタリアの子どもといろいろ活動したりしたことです。なぜかという、ぼくは外国人と話したことや交流がなかったので、オルトにきて初めてこのような交流をしてどのようにしたら話したいことがわかるかなどを知って、日本で外国人と交流するきかいがあればすすんでしたいです。

### Fちゃん(5年生) (抜粋)

私は、このオルトでみんなのことを受けいれることを学びました。一人一人同じひとはいないので、一人一人を大切にしたいし、その人のいいところをたくさんほめて、苦手なところは助けたいです。また、いろいろなことに感謝することを忘れないようにしたいと思います。



G君(3年生)のお母さまより (抜粋)

生まれてから1度も海に入っていないことの原因や原発事故から8年の経過については、本人が理解できる範囲内で話しておりましたので、イタリアで思いきり過ごせることを本人はとって有難いこととして捉えておりました。また、多くの方の善意の上でイタリアに行けることをなかなかできないこととして捉えております。

Hちゃん(3年生)のお母さまより (抜粋)

家族や一部の知人は保養や避難に対し否定的です。心ない言葉や態度をとられ辛い思いを多々受けています。でも保養は決して悪い事ではない、むしろ子供を守る為に大切な事だと私は思っています。外国に約1カ月の保養は不安も大きかったけど帰国した娘をみて行かせ良かったと思えました。(中略) イタリアではりんごや桃を皮ごと食べていいんだよ!とか地べたに座って紐を編んだり、歌を唄ったことが楽しかったと話してくれます。放射能を心配しすぎて食や行動に制限をかけていたので何気ない日常が娘には新鮮だったようです。(中略) 娘は未だに皆様の事を思い出しては泣いています。布団で車内で、国旗見て、写真を見て泣き(笑)。福島で暮らすには一生放射能と共存しなくてはなりません頑張っていきたいと思えます!皆様からの沢山の愛をありがとうございます。

I君(5年生)のお母さまより (抜粋)

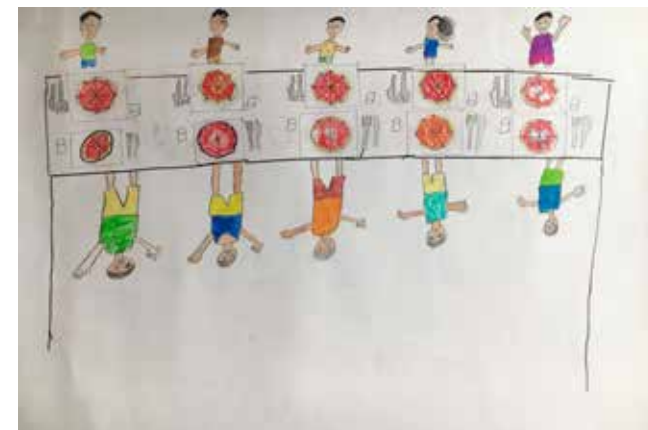
本人は行く前は友達ができるか不安で、他の子やスタッフさんと一言も話さないで帰って来るのかなって思ってたみたいです。でも帰ってくれば楽し過ぎてイタリアに帰りたいと言います(笑)。みんな仲良くしてくれたからです。今回の経験が自信になり、社会に出ても人間関係は大事ですから、大きく生かされると思います。この歳でこのような経験できたことは大変有難いです。また、日本とイタリアの違いについて考え、僕はこっちが好きだなと視野や考え方も広がりました。すてきな経験でした。(中略) 最近、福島にいと放射能について考える機会が以前より減ったと思います。意識も薄れているかもしれません。説明会での放射能問題を聞いて改めて考えることができました。ちょっと怖くなり、福島に住んでは行けないのかと感じました。でも福島にこれからも住みたいので、何をどう気を付ければいいのか、改めて家族で話したいと思えます。

Jちゃん(4年生)のお母さまより (抜粋)

一緒にイタリアで過ごした19人の友達のことをたくさん話してくれるので、子ども達同士はすごく仲良く絆を育んだのだと感じる。イタリアで1ヶ月過ごしたことが自信となり、何事もやってみようと思ったり、楽しいときに全身を使って喜びを表現する姿を見ることができる。(中略) 放射能の考え方は本当に人それぞれで福島に住んでいると話題にしづらい雰囲気がある。この保養プログラムに参加している子達は少なくとも保養の良さを心と体で感じてきたので、私にとっても同志のように感じられる。(子ども達同志は純粋に“同志”だと思う)

K君(6年生)のお母さまより (抜粋)

夏休みの宿題として、「支え合う気持ち」という作文を書いたようです。地元での暮らしは、身近な人の優しさと多くの方々の支えがあって楽しく過ごせている事、イタリアという遠い地で、子どもたちの未来を考えて支援してくれている方々がいる事、自分は今は支えてもらっている側だけど、将来は助ける側として人の支えになりたい事を書いていました。イタリアの体験からこのような事を感じ、捉える事ができたのだと思います。



「オルトファミリー」-本協会の転地保養プログラムにこれまで参加した子どもたち、および今後参加する子どもたち-について、長期的観点における個々の健康管理のための継続的かつ安定したサポートを計画・実施すること。

「認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね」とのパートナーシップをふまえ、イタリアと日本との連携をより充実させるための体制を強化していくこと。

### 2020年 転地保養の実現

#### イタリア発、福島の子どもたちの元気と夢を育むプロジェクト 「カーサ・オルト - イタリアのみんなの家」2020

開催地:

リグーリア州サヴォーナ県近郊

福島から招待する子どもたち:

目標人数 20名

対象年齢 8才から12才

開催期間:

2020年7月末から8月末の約1ヶ月

募金目標金額:

30.000~35.000 ユーロ

日本の公式パートナー:

認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね

NPO法人ピースプロジェクト

